

武蔵野市スポーツについてのアンケート調査報告書（概要版）

平成27年10月 武蔵野市教育委員会

I. 調査の概要

調査実施の目的

本調査は、武蔵野市が平成27年度に予定している「武蔵野市スポーツ振興計画（平成21年4月策定）」の一部改定に向けて、市民の健康およびスポーツ活動に関する現状やニーズ等を把握し、課題等を整理し計画に反映するために、市民のスポーツに関する意識調査を実施したもので、計画改定の基礎的資料として作成したものです。

高校生の意識調査		今年度に16歳もしくは17歳になる市民の方300名を住民基本台帳から無作為抽出
成人の意識調査(※)	一般市民調査	18歳以上の市民の方1,600名を住民基本台帳から無作為抽出
	関係団体調査	スポーツ団体で活動されている方120名を体育協会加盟団体の所属員およびスポーツ推進委員より抽出
	施設利用者調査	市のスポーツ施設を利用した方200名

※「成人」区分には18歳、19歳の方を含んでいます。

調査期間：平成27年8月7日（金）～8月31日（月）

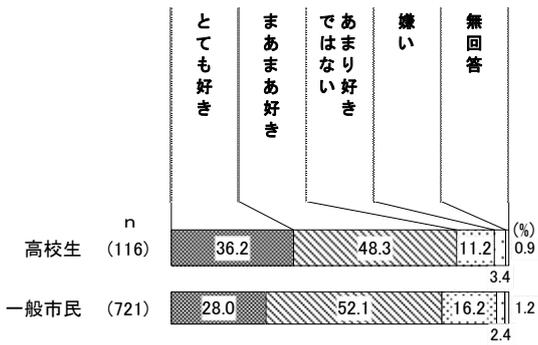
調査名	調査方法	配布数	回収数	回収率
高校生の意識調査	郵送配布・郵送回収	300件	116件	38.7%
一般市民調査		1,600件	721件	45.1%
関係団体調査	直接配布・郵送回収	120件	86件	71.7%
施設利用者調査	施設で直接配布・回収	200件	178件	89.0%

II. 調査結果の詳細

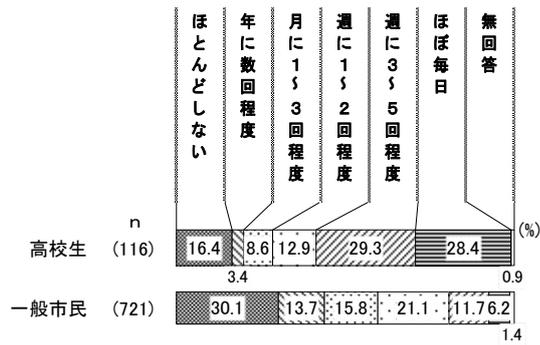
1. スポーツや運動について

- スポーツの好感度：「とても好き」「まあまあ好き」を加えた『スポーツが好き』な割合は、高校生、一般市民ともに8割以上となっています。
- スポーツや運動の頻度：週1回以上スポーツや運動をする割合は、高校生で約7割となっており、一般市民では約4割となっています。
- スポーツや運動をする理由：高校生では「楽しいから」が約6割で最も高く、一般市民では「健康の維持・体力づくりのため」が6割台で最も高くなっています。
- スポーツや運動をしない理由：高校生、一般市民ともに「忙しいから」が5割台で最も高くなっています。
- 現在行っているスポーツ：高校生では「筋力トレーニング」(35.3%)が1位、「ジョギング・ランニング」(27.6%)が2位、「テニス（車いすテニスなどを含む）・バドミントン・卓球・スカッシュ」(22.4%)が3位となっています。一般市民では「ウォーキング・散歩」(43.4%)が1位、「体操・ストレッチ・ヨガ・エアロビクス・ピラティス」(25.5%)が2位、「筋力トレーニング」(15.7%)が3位となっています。
- 今後行ってみたいスポーツ：高校生では「テニス（車いすテニスなど含む）・バドミントン・卓球・スカッシュ」(25.9%)が1位、「バスケットボール（車いすバスケットボールなどを含む）」(19.8%)、「弓道・アーチェリー」(19.8%)が同率2位となっています。一般市民では「水泳・アクアビクス・水中ウォーク」(25.7%)が1位、「体操・ストレッチ・ヨガ・エアロビクス・ピラティス」(18.9%)が2位、「ウォーキング・散歩」(15.8%)が3位となっています。

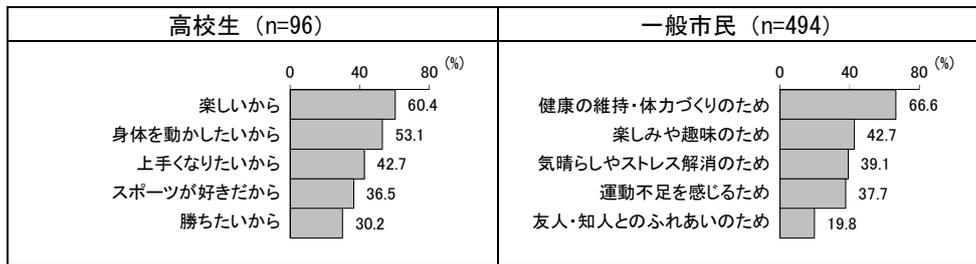
(1) スポーツの好感度



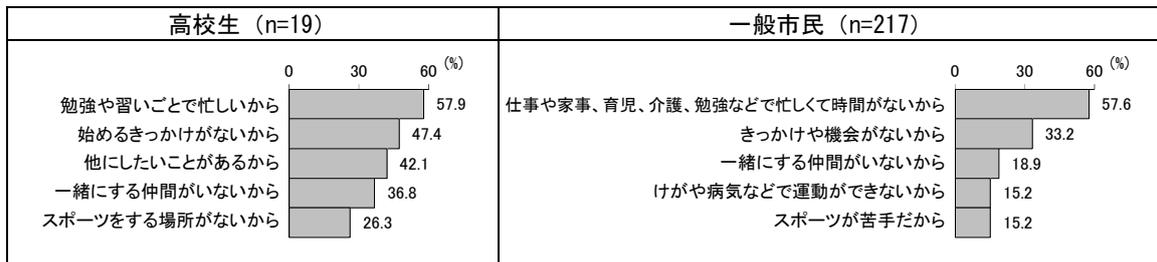
(2) 運動やスポーツの頻度



(3) スポーツや運動をする理由 (上位5項目)



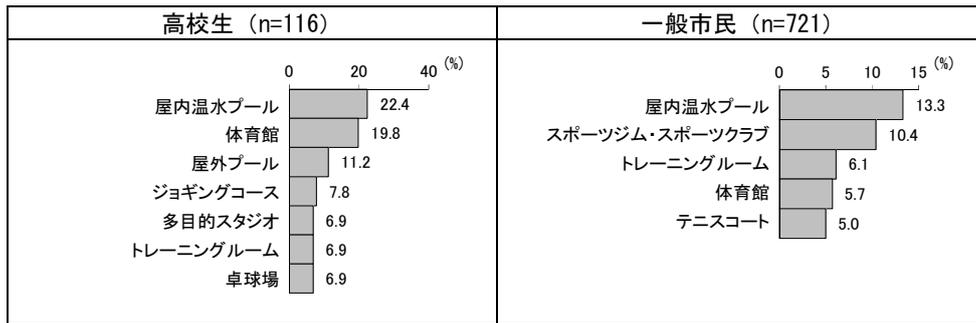
(4) スポーツや運動をしない理由 (上位5項目)



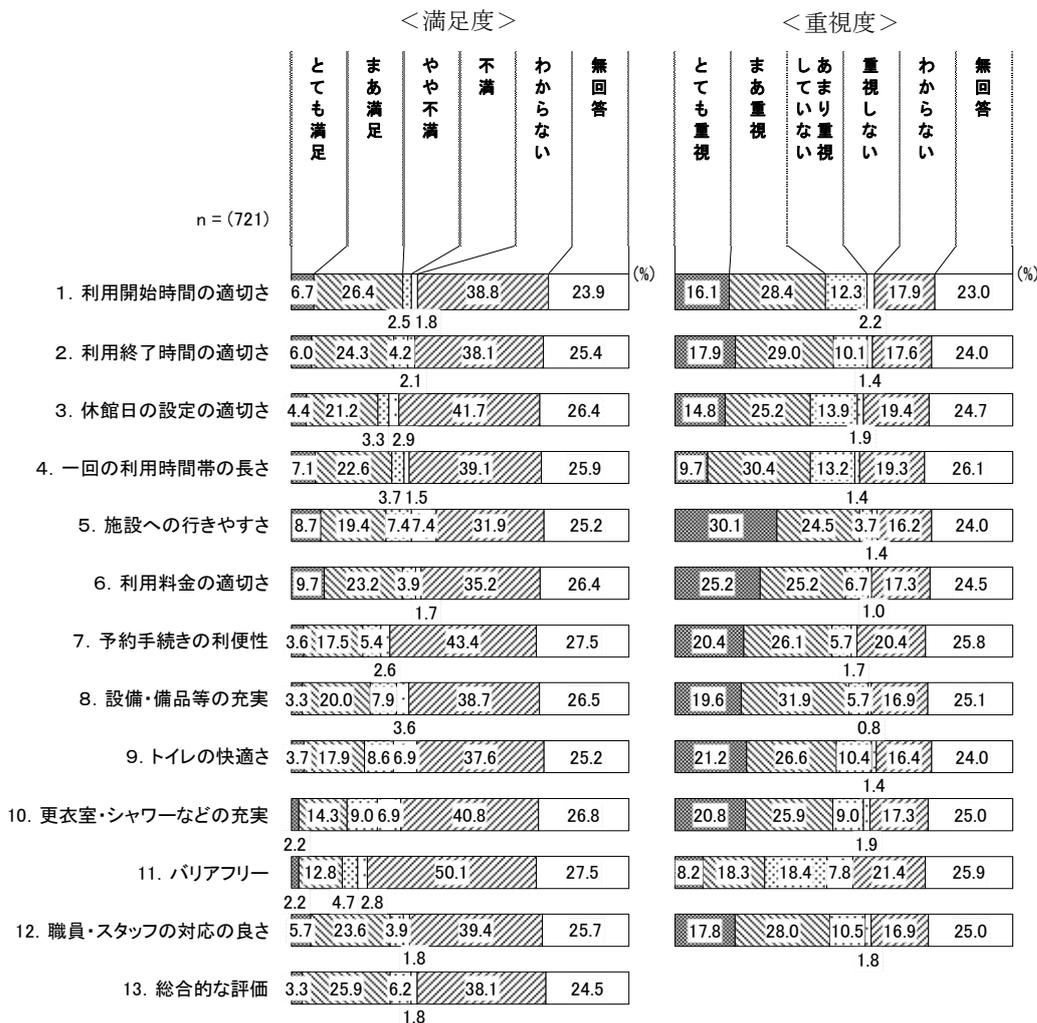
2. スポーツ施設の利用について

- 普段利用しているスポーツ施設：高校生では「屋内温水プール」(22.4%)が1位、「体育館」(19.8%)が2位、「屋外プール」(11.2%)が3位となっています。一般市民では「屋内温水プール」(13.3%)が1位、「スポーツジム・スポーツクラブ」(10.4%)が2位、「トレーニングルーム」(6.1%)が3位となっています。
- 市のスポーツ施設の満足度、重視度 (一般市民)：「とても満足」+「まあ満足」の『満足割合』について見ると、「利用開始時間の適切さ」(33.1%)が1位、「利用料金の適切さ」(32.9%)が2位、「利用終了時間の適切さ」(30.3%)が3位となっています。一方、「やや不満」+「不満」の『不満割合』について見ると、「更衣室・シャワーなどの充実」(15.9%)が1位、「トイレの快適さ」(15.5%)が2位、「施設への行きやすさ」(14.8%)が3位となっています。また、「とても重視」+「まあ重視」の『重視割合』について見ると、「施設への行きやすさ」(54.6%)が1位、「設備・備品等の充実」(51.5%)が2位、「利用料金の適切さ」(50.4%)が3位となっています。

(1) 普段利用しているスポーツ施設（上位5項目）



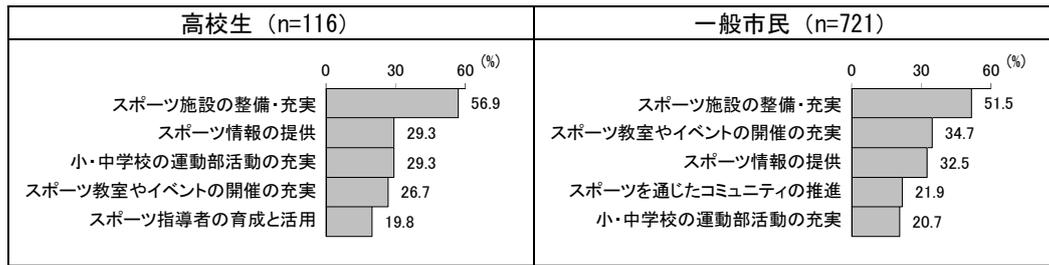
(2) 市のスポーツ施設の満足度、重視度（一般市民）



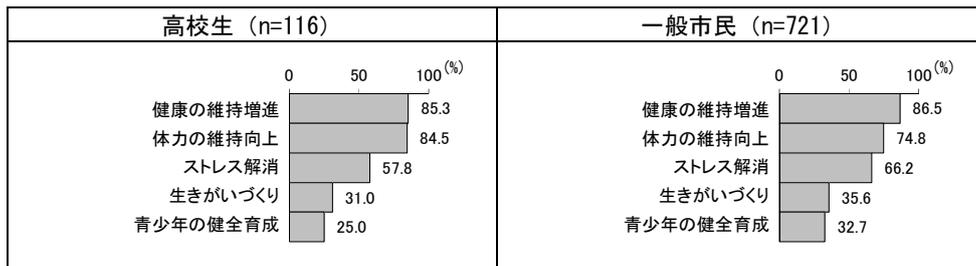
3. スポーツの振興について

- スポーツ振興のために必要な取り組み：高校生、一般市民ともに「スポーツ施設の整備・充実」が半数を超えて最も高くなっています。
- スポーツで得られる効果：高校生、一般市民ともに「健康の維持増進」、「体力の維持向上」、「ストレス解消」が半数を超えて高くなっています。

(1) スポーツ振興のために必要な取り組み（上位5項目）



(2) スポーツで得られる効果（上位5項目）



4. 2019年ラグビーワールドカップ（日本）、2020年東京オリンピック・パラリンピックについて

- 大会が開催されることの認知度：2020年オリンピック・パラリンピックの認知度は、高校生、一般市民とともに9割台半ばと非常に高くなっていますが、2019年ラグビーワールドカップの認知度は、高校生で5割台半ば、一般市民で7割弱となっています。
- 大会の観戦意向：この調査は今年行われたラグビーワールドカップ2015イングランド大会の開催前に実施したのですが、この時点では、2019年ラグビーワールドカップは、「競技会場で直接観戦したい」は高校生で8.6%、一般市民で18.3%となっており、「テレビ・ラジオ等で観戦したい」は高校生で26.7%、一般市民で30.0%となっています。2020年オリンピックは、「競技会場で直接観戦したい」は高校生（50.9%）、一般市民（47.2%）で5割前後となっています。2020年パラリンピックは、「テレビ・ラジオ等で観戦したい」は高校生で52.6%、一般市民で43.8%となっています。
- 大会のボランティア等への参加意向：2019年ラグビーワールドカップでは、「積極的に参加・協力したい」は高校生で8.6%、一般市民で4.0%となっており、「できる範囲で参加・協力したい」は高校生で11.2%、一般市民で13.7%となっています。2020年オリンピック・パラリンピックでは、「積極的に参加・協力したい」は高校生（23.3%）で2割台となっています。「興味はあるが時間がない」、「参加・協力するつもりはない」は一般市民でそれぞれ23.3%、28.8%と2割台となっています。

(1) 大会が開催されることの認知度

○ 2019年ラグビーワールドカップ

○ 2020年オリンピック・パラリンピック

